

「大きな力のある祈り」

ヤコブ5：13－16

神田 明美

おはようございます。本日の聖書箇所は、新約聖書ヤコブの手紙5章13－16節のみことばです。では、お読みします。

13あなたがたの中に苦しんでいる人がいれば、その人は祈りなさい。喜んでいる人がいれば、その人は賛美しなさい。

14あなたがたのうちに病気の人があれば、教会の長老たちを招き、主の御名によって、オリーブ油を塗って祈ってもらいなさい。

15信仰による祈りは、病んでいる人を救います。主はその人を立ち上がらせてくださいます。もしその人が罪を犯していたなら、その罪は赦されます。

16ですから、あなたがたは癒されるために、互いに罪を言い表し、互いのために祈りなさい。正しい人の祈りは、働くと大きな力があります。

今日のメッセージのテーマは「祈り」です。

今日の聖書箇所では、ヤコブの手紙の著者であるヤコブは、祈りの力について語っています。特に、「あなたがたは癒されるために祈りなさい」と言いながら、「正しい人の祈りは、働くと大きな力がある」と結論づけます。

今日の箇所は、持病があったり、病で苦しんでいたりと、肉体的精神的に痛みや弱さを抱えている方々にとっては、希望や励ましとなる箇所かもしれません。そして、「神様、この御言葉にあるように、私のこの病も癒してください。」と祈らずにはいられなくなる箇所かもしれません。

聖書は、今日の箇所のように、あらゆる箇所で確かに癒しの奇跡を語っています。15節にも、信仰によって祈れば、主が立ち上がらせてくださると書かれています。

しかし、もう一方で、今日の箇所は、自分や家族の病や痛み、弱さのために長い間祈ってこられた方々にとっては、「そう聖書に書いてあるけど…、ずっと祈ってきたし…、今も祈ってはいるけど…いつまで経っても癒されない…」と、なかなか受け入れられない御言葉となるかもしれれません。私たちの祈り課題、抱えている病や家族間にある痛みなど、置かれた現状を通して見るとき、なかなか現実的に適用することが難しいと思ってしまうこともあるかもしれません。

今日の本文は、一体何を私たちに語り、伝えようとしているのでしょうか。

今日の箇所は、祈りによって本当に守られ、癒された経験をした方は、心からこのことに「本当にそうです。アーメンです。」と同意すると思いますが、そうでない方にとっては、今日の箇所を読みながら、「いやあ、エリヤみたいにどころか、全然祈れてないからな。」「全然聖書に書いてあるような正しい人じゃないからな。」「自分は信仰弱いからダメだ」と、癒されないのは自分のせいという

結論を出してしまうような箇所かもしれません。「なんで神様こんなに祈ってるのに癒してくださらないんだ」と神様に怒りをぶつけたくなる人もいるかもしれません。

しかし、私たちが覚えておかなければならないことがあります。それは、御言葉は私たちの体験や経験によって、正しい・正しくないなどと判断できないものですし、私たちを基準に判断してはいけないものだということです。神様の御言葉は、いつもどんな時でも神様が基準であり、私たちにとって変わるもののない真理なわけです。

なので、今日は本文でヤコブが語っている「祈り」の核心、信仰による祈り、正しい人の祈りとは一体どんな祈りか、共に見ていきましょう。

8月の末に、スタッフエバリュエーションミーティングというスタッフの勉強会が二日間ありました。その二日目に、スタッフで説教について、聖書の読み方について学ぶ機会がありましたが、この学びを通して、聖書の間違った読み方をしてしまうことがあるなど、改めて気をつけなきゃと思わされたことがあります。

一つ目が、聖書に書かれている御言葉の一部分だけを切り取って用いたり語ったりすることです。色々あると思いますが、例えば、ヨブ記8：7に「**あなたの始まりは小さくても、あなたの終わりは、きわめて大きなものとなる。**」この部分だけなら、主がわたしを守り祝福してくださり、大きなものとしてくださるという風に受け取ることもできてしまう箇所です。

しかし、ヨブ記全体を読んで見ると、この箇所は、そのように受け取る箇所でないことがわかります。ヨブという人が数々の試練・苦難に遭って苦しんでいるところに、ヨブの三人の友人、エリファズ、ビルダデ、ツォファルが彼を慰めようと訪ねてきます。しかし、ヨブの痛みが苦しみがとても大きすぎて、かける言葉もないまま、1週間ただ地に座っているだけでした。

そして、その後友人たちは、なぜヨブがこんな風に苦難を受けたのだろうかとヨブを含め話してる内容が書かれているのがヨブ記です。そして、友人たちがああでもないこうでもないと言っている時に、ビルダデという友人がいった言葉の一つがさっきの8章7節の言葉ですね。

この言葉だけ聞いたら、とてもいい言葉です。ですが、ヨブ記の最後の方まで読み進めていくと、この言葉の意図が分かってきます。

なぜなら、この言葉をいったビルダデ含めた友人たちが神様に「わたしについて確かなことを語らなかった」と言われながら叱られるからです。ビルダデがヨブに言った言葉を要約すると、こうです。「理由なく神が人に苦難を与えるだろうか。あなたの子供たちも神に罪を犯したから災いの中で死んでいったんだ。あなたも理由なくこんな辛い苦難にあっていだろうか？神に罪を犯したから、こんな苦難の中にいるんだ。だからあなたも自分の罪を認め、悔い改めなさい。そうすれば、あなたの始まりは小さくても、あなたの終わりは、きわめて大きなものとなる。」と8章7節の言葉が語られているんです。これは、とても人本主義的な言葉となるものだったんです。

私たちの理解を超えている出来事や苦難にあった時、私たちもこのビルダデのような考えをしてしまうことがあります。ビルダデの考え方のどこが間違っているのでしょうか？それは、神様のことを、自分の考えの型・枠にはめこんで、神様ってこういう方だよと決めつけてしまっているところです。偉大な神様を自分の小さな枠に押し込めて、小さな神理解にとどまってしまうところです。

神様はご自身の御心、主権を持って働かれる方で、私たちの言葉によって働かれる方ではありません。ヨブは、「この苦難を理解することはできないし、とてもつらいけど、あなたはすべてのことができること、どのような計画も不可能ではないことを、わたしは知りました。」と神様について確かなことを告白し、その後祝福されていきます。

なので、私たちは、聖書の一部だけを見るような読み方は気を付ける必要があります。

二つ目は、聖書にたくさんの奇跡や私たちの理解や想像を遥かに超えた出来事が書かれていますが、私たちが聖書を読むとき、その超自然的出来事の本質的内容を受け取るのではなく、その現象や結果を信仰の基準としてしまうことがあるということです。

今年の初めにペテロが水の上を歩いた箇所からメッセージしましたが、その箇所で私たちは、ペテロが信仰をもって水の上を歩くという奇跡を見ました。私たちはこの箇所から、信仰があるなら水の上を歩けなくちゃダメだとは言いません。また、水の上を歩ければ信仰があるということだとも言いません。

でも時として、私たちは奇跡や人間の理解・想像を遥かに超えた出来事の現象や結果を信仰の基準としてしまうことがあります。例えば、使徒の働き2章に書かれているペンテコステの出来事ですが、集まっていた人たちが聖霊に満たされて、他国の色々な言葉で話出します。この出来事の核心的部分は、聖霊様が人たちのうちに来られたということです。異言を話せれば私たちのうちに聖霊様がおられるとは書かれていません。

私たちが何かをしたら聖霊様が私たちの内に臨んでくださるというものではなく、聖霊様はすでに私たちの内にいてくださっているんですね。

にもかかわらず、賜物を強調する人は、真の信仰者となるためには、異言で話せるようになったり、私たちが聖霊による洗礼を受けなければいけないと話す人もいます。本質を逃し、私たちの内にすでに神様の恵みがあるにもかかわらず、超自然的な出来事にフォーカスを当てすぎて、もう一度神様の恵みを受け直すというのは、聖書的ではありません。

聖書には、イエス様を主と告白し信じる時、聖霊様はその時すでに私たちの内に臨んでくださっていると言います。私たちに必要なことは、私たちの内におられる聖霊様と共に主の御心に従って歩むことです。私たちクリスチャンの持つ力は、すでに私たちの手の中に主の御言葉があり、私たちの内に聖霊様がいらっしゃるって、イエス様が今も天から私たちのためにとりなし祈ってくださっているという事実を信じることです。何かノルマのようなものではありません。

このような話をしたのは、今日の箇所を理解するのに助けとなる内容だからです。今日の聖書箇所を見ていく中で、ある部分だけをピックアップして見ないように、また祈りの結果としての病の癒やしや、エリヤが祈りで雨を降らせなかったり降らせたりしたということにフォーカスを当てて、それを祈りの動機としないようにという確認のためでした。

ヤコブが今日の箇所から、私たちに伝えたいことは一体なんでしょうか？皆さんは、今日の聖書箇所ではヤコブが強調していることはなんだと思いますか？それは「祈りなさい」です。祈ったら苦しみから解放される、祈ったら病が癒やされる、祈ったら雨が降るではなく、「祈りなさい」というのが重要です。

13節をご覧ください。あなたがたの中に苦しんでいる人がいれば、その人は祈りなさい。喜んでいてる人がいれば、その人は賛美しなさい。

賛美は詩篇を見てもそうですが、曲調のある、メロディーのついた祈りともいえますよね。喜んでいてる人はとあるので、感謝の祈りと言えると思うんです。なので、13節は言い換えるなら、あなたがたの中に苦しんでいる人がいれば、その人は祈りなさい。喜んでいてる人がいれば、その人は感謝の祈りをしなさい。ですね。

ヤコブは、苦しんでいる人がいれば、祈れば、その苦しみはなくなるとは言っていません。喜んでいてる人がいれば、祈れば、その喜びは倍に増えるとも言っていません。ここのポイントは「祈ること」です。

ヤコブの手紙5章7節からのヤコブの結論の内容を見ていくと、これらの内容は、主が来られる時を待ち望んでいる兄弟たちに語っている言葉だということがわかります。ここでは忍耐し歩むことが語られています。天に望みを置き、地で忍耐し歩む人。主の再臨を待ち望む人は、ヤコブの結論を見ると、二つのことをしてはいけないと書かれています。

5章9節を見ると、互いに文句を言い合うのはやめなさい。主が来られる時を待ち望む者は、耐え忍び、心を強くし、文句を言い合わないようにとあり、12節を見ると、誓うことはやめなさい。 unnecessary 言葉を言わずに、「はい」は「はい」、「いいえ」は「いいえ」と言いなさいと、私たちが自分の口に気を付けることが話されていますが、今日の箇所を見ると、私たちが自分の口で、本当にすべきことがなんなのかをヤコブは語ってくれています。それは、文句を言い合うのでもなく、誓うことでもなく、「祈る」ことです。主の再臨を待つ者たちにとって大事なことは祈ることだということです。

「祈る」ことが大切。これは、ヤコブだけが語っていることではありません。パウロもこのように言っています。1テサロニケ5：17でテサロニケ教会にパウロは「絶えず祈りなさい」と語り、また、コロサイ4：2で、コロサイ教会に「たゆみなく祈りなさい。感謝をもって祈りつつ、目を覚ましていなさい」と言っています。

ペテロも、1ペテロ4：7で「万物の終わりが近づきました。ですから、祈りのために、心を整え身

を慎みなさい」といい、祈りの大切さを語っています。

祈りの大切さを知っている方は、本当にその通りだと思われると思います。しかし、ある人は、どうやったら絶えず祈れるんだろうか？たゆみなく祈るってどういうことだ？祈りつつ目を覚ましていなさいの意味は一体なんだ？と思われる方もいらっしゃるでしょう。

今日のヤコブの箇所もそうです。13あなたがたの中に苦しんでいる人がいれば、その人は祈りなさい。喜んでいてる人がいれば、その人は賛美しなさい。というけれど、私なんかはちょっとひねくれてるので、今は苦難と言える苦難もないし、喜びも対してない場合は？と思ってしまうことがあります。

今を生きる私たちが苦しみや喜びと聞いて思い浮かべるものはどんな苦しみと喜びでしょうか？色々ありますよね。苦しみなら病に長年苦しんだり、事故で大怪我や、人間関係や家族間の問題だったりします。進路や仕事のことで苦しむこともあります。

また、喜びも色々あります。新しい命の誕生や、友達と楽しい時を過ごしたり、仕事や勉強が順調に言ったり、行きたい学校や職場に行けるようになったり、子供たちの成長、また買った家の値段が上がったり、宝くじが当たったりなど色々あります。

私たちの日常にはいろんな苦しみと喜びがあって皆さんそれぞれ思い浮かびますよね？しかし、この苦しみと喜びは、ノンクリスチャンの人たちにもあるものですよね。神様を信じていない人でも、「困った時の神頼み」という言葉があるくらいですから、苦しい時、神に祈り求めたりします。

では、ヤコブがこの13節で話している苦しみと喜びは、どんなものを言っているのでしょうか。

ヤコブが、「祈る」ことを誰に語っているかが重要です。5章7節を見てください。「ですから、兄弟たち」主が来られる時を待ち望んでいる人。主の祈りで祈ったように、主の御心が店で行われるように、地でも行われることを切に願ってる人。主のご計画・約束の全てが成就することを信じ願っている人が受ける苦しみと喜びという事実がここにあります。

10節にはこう書いてあります。兄弟たち。苦難と忍耐については、主の御名によって語った預言者たちを模範にきなさい。

ここに、苦難という言葉が出てきます。預言者たちを模範にきなさいとあります。ということは、聖書にこれまで書かれてきた苦難と同じことを言っているということです。神様を信じ、みことばを信じ、主が来られるのを切に願う人、心にイエス様の十字架がある人、クリスチャンは、いつもみことばに歩もうとし、福音を伝えようとしてきました。そんな人たちは世から、人たちから、悪魔からそれを邪魔する、迫害する苦難がありましたよね。

ヤコブのいう苦難は、私たちが神様を、福音を伝える時にある苦難を指します。その時祈りなさいと

言っています。祈りには、みことばに歩もうとする人に、そのように歩めるよう力を与えてくださる神様の愛と慰めが溢れています。

神様が与えてくださる愛と慰めを、御心が地でもなされることを祈り願う人は、祈りによって受け取ることができるんです。

喜びも同じです。ここでヤコブの言う喜びも、世の喜びとは違います。欲しいもの買えたり、自分の子たちが良い学校、良い職場に就職できたという喜びではなく、神様の御心が御業がこの地になされているのを見いだした時に受ける喜びです。私たちの人生の中で、生活の中で、人間関係の中で神の栄光が表されたのを見た時に感じる喜びのことです。

ずっと祈っていた友達が、礼拝に來ただけでなく、教会生活を交わりを楽しむようになり、生活が変わっていくのを横で見た時の喜びです。あんなに教会に來るのを渋っていた家族が自分の横に座って礼拝に出ているのを見た時の言いようもない喜びのことです。

なので、13節あなたがたの中に苦しんでいる人がいれば、その人は祈りなさい。喜んでいてる人がいれば、その人は賛美しなさい。をもう一度見ますと、この言葉は、神様の御言葉に歩む人は、祈るしなくなる。祈らずにはいられなくなる。だから祈りなさい。と語られているように思うんです。

状況によって祈る者から、福音を握りしめ、神の御心を求め、神の国と神の義をまず求め、いつも祈る者への招きです。

エリヤを見てみましょう。17-18節

17 エリヤは私たちと同じ人間でしたが、雨が降らないように熱心に祈ると、三年六か月の間、雨は地に降りませんでした。

18 それから彼は再び祈りました。すると、天は雨を降らせ、地はその実を実らせました。

この御言葉を読んで皆さんはどこに線を引きたくなりますか？熱心に祈ると。また再び祈りというところというところに線を引きたくなりませんか？なんかことがうまくいかない時、私たちも、熱心な祈りが足りないのかも。また祈らなきゃと適用することがあります。

エリヤは書かれているとおり熱心に祈りました。私たちもこのエリヤの箇所を見ると、一体どう祈ったら雨をやませ、降らせることができるのだろうと、その祈りの秘訣を知りたいと思ってしまいます。

ヤコブのこの手紙を読んでいた当時のユダヤ人は旧約をよく知っているのです、エリヤがどんな思いで熱心に祈ったか、またその祈りの内容や背景の物語を知っていました。彼は「神様、雨を降らせてください」と祈ったのでしょうか？雨がやんだり、降ったりしたのは

Ⅰ列王記を見ると、すでに神様が定めていたことであることがわかります。エリヤが熱心に祈りましたが、その前に神様がそうすると計画されていたんです。

I 列王記 18 章 1 節

1 かなりの日数を経て、三年目に、次のような主のことばがエリヤにあった。「アハブに会いに行け。わたしはこの地の上に雨を降らせよう。」

すでに神様が雨を降らせることを計画しています。では、エリヤはなんでそんな熱心に祈ったのでしょうか？もう決まっているのと思わないですか？

皆さん、こう思ったことないですか？全知全能な神様はすでに私たちの全てを知っていて、必要を満たし、守り導いてくださるのに祈る必要があるのかと。神様が雨を降らせると決めたのなら、もう待てばいいのではないかなと思わないですか？これは神様の思いを知らない言葉かもしれません。エリヤの祈りを見てみましょう。

I 列王記 18：36－37

36 ささげ物を献げるころになると、預言者エリヤは進み出て言った。「アブラハム、イサク、イスラエルの神、主よ。あなたがイスラエルにおいて神であり、私があるあなたのしもべであり、あなたのおことばによって私がこれらすべてのことを行ったということが、今日、明らかになりますように。

37 私に答えてください。主よ、私に答えてください。そうすればこの民は、主よ、あなたこそ神であり、あなたが彼らの心を翻してくださったことを知るでしょう。」

エリヤの熱心な祈りは、雨を降らせてくださいというものではなく、民たちが、あなたこそ神であることを知る必要があります。神の栄光を表してください。父なる神様が生きて働かれていることを知らしめてくださいというものでした。神様と思いが一つになっている祈りです。

ここに、神様の栄光が表され、そして魂の救い、エリヤのように私たちも熱心に祈り、ふたたび祈る理由、苦しむ時祈り、また喜んでいるときに賛美し祈る理由があるのではないのでしょうか。

このような祈り、神様と同じ思いで、福音がまだ伝わってない家族や友人、人たち、世にいてもたってもいられなさを感じながら、「神様、私たちを通して人たちが神様あなたが生きて働かれていることを明らかにしてください。彼らを立ち帰らせてください。私たちに答えてください。私たちの祈りに答えてください。そしたら、立ち返らせてくださったのも神様あなたであることを知ることができます。」という熱心な祈りをヤコブは、正しい人の祈りと、そして働くとき大きな力があると言っています。

そして、大きな力がある理由は、その祈りを主が聞いてくださり、ご自身の計画を、御業を主が成し、神様ご自身が働いてくださるからです。

それでも、中には、でも祈りがよくわからないと言う方がいらっしゃるかもしれません。でも大丈夫です。ローマ人への手紙 8：26－27

26 同じように御霊も、弱い私たちを助けてくださいます。私たちは、何をどう祈ったらよいか分からないのですが、御霊ご自身が、ことばにならないうめきをもって、とりなしてくださるのです。

27 人間の心を探る方は、御霊の思いが何であるかを知っておられます。なぜなら、御霊は神のみこ

ころにしたがって、聖徒たちのためにとりなしてくださるからです。

精霊様が助けてくださいます。安心してゆだねつつ祈っていきましょう。

また、これからも私たちの福音を伝え、キリストを証する歩みには喜びもありますが、苦難も続きます。でも大丈夫です。ローマ人への手紙 8：34 だれが、私たちが罪ありとするのですか。死んでくださった方、いや、よみがえられた方であるキリスト・イエスが、神の右の座に着き、しかも私たちのために、とりなしていてくださるのです。

祈ります。

愛する天のお父様、今日のみことばを感謝します。私たちの教会を、私たち一人一人を、あなたの栄光を表し、イエス・キリストの十字架を、福音を伝える者してください。私たちの教会が真の教会となるよう、私たちがキリストに似た者となるよう助けてください。ただただあなたの御心がこの地、そして私たちの置かれた地でなされ、あなたの御業が家庭にも、学校にも、職場にもなされますように。

主よ。あなたがこの日本においても神であり、私たちがあなたのしもべであり、あなたのみことばによって私たちがすべてのことを行っていることが、これからも、明らかになりますように。私たちに答えてください。主よ。そうすればまだあなたを信じない家族や友人、周りの人たちは、あなたこそ神であり、あなたが彼らの心を翻してくださったことを知るでしょう。全てを